令和５年１２月越前町議会定例会

（第２号）

令和５年１２月７日

目　　次

第２号（１２月７日）

○出席議員及び欠席議員氏名……１
○会議録署名議員の氏名……１
○職務のために議場に出席した者の職氏名……１
○地方自治法第１２１条により説明のため出席した者の職氏名……１
○議事日程……２
○開　　議……３
○一般質問……３
笠　原　秀　樹　君……３
木　村　　繁　君……６
○散　　会……１０

出席議員及び欠席議員氏名

議席番号	氏名	出席	欠席	摘要
1	小松　高宏	○		
3	吉田　憲行	○		
4	石田　和朗	○		
5	長谷川　眞惠	○		
6	中西　　清	○		
7	髙田　浩樹	○		
8	藤野　菊信	○		
9	米沢　康彦	○		
１０	佐々木　一郎	○		
１１	伊部　良美		○	
１２	笠原　秀樹	○		
１３	木村　　繁	○		
１４	北島　忠幸	○		

会議録署名議員の氏名

４番議員	石田　和朗	５番議員	長谷川　眞惠

職務のために議場に出席した者の職氏名

事務局長	石田　和也	事務局次長	岡田　寿子
事務局書記	安井　正樹		

地方自治法第１２１条により説明のため出席した者の職氏名

町　　長	青柳　良彦	副 町 長	細井　秀之
教 育 長	出口　俊一	総務理事	菅原　辰彦
民生理事	山口　隆司	産業理事	原　　雅哉
建設理事	水島　博之	会計管理者	佐々木　直人
教育委員会事務局長	髙木　剛彦		

令和５年１２月越前町議会定例会議事日程〔第２号〕

令和５年１２月７日（木）

日程第　１　一般質問

開議　　午前１０時００分

○議長（佐々木一郎君）　おはようございます。
今日は本会議の２日目です。よろしくお願いいたします。
ただいまの出席議員数は１２名です。
なお、伊部良美君から欠席届が提出されております。
定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。
議事日程については、お手元に配付のとおりです。

日程第１　一般質問

○議長（佐々木一郎君）　日程第１　一般質問。
昨日に引き続き一般質問を行います。
本日は、一括質問一括答弁方式での質問を行います。
１２番、笠原秀樹君。

１２番（笠原秀樹君）登壇

○１２番（笠原秀樹君）　映画「おしょりん」、大変好評ということで、非常によかったと思っていますが、また、越前町全体がそのロケ地になったのではないということもちょっと寂しい思いもありますが、当町としましても映画撮影公営負担金３００万円拠出をしています。これに対して、どれだけの経済効果があったかは分かりませんが、これから期待をしたいと思うところでございます。

また、それと同時に上映されました「翔んで埼玉～琵琶湖より愛をこめて～」、これも私も鑑賞しましたが、あれだけばか騒ぎの映画でも、埼玉県、滋賀県の両知事は歓迎の言葉を述べられておられます。

やはり、あれ、どれだけの経済効果があるかと、これは「おしょりん」をはるかに超すんじゃないかなと私は思いますが、今まで木村議員も質問のたびに、越前町全体を映画のロケ地にとか、あるいはのど自慢の会場誘致なども提案をされてきておられます。これらもやはり全て越前町のＰＲ、イメージアップ、さらには観光客の増加、また移住定住の促進につながればという強いお考えの下での提案であったと私は思いますが、いずれにしましても、町単独では難しいことがあるかもしれませんが、県とタイアップして少しでも実現するとしたら、すばらしいなと思うところでございます。

それでは、通告書に基づき質問をいたします。

まず、新年度の予算編成に当たっての町長の取組みについてをお尋ねをいたします。

町長は、町長選に臨むに当たりまして、議員時代に、このままでは越前町がなくなってしまう、強い危機意識をお持ちになられまして挑戦をされまして、見事当選をされました。今日まで町政の刷新に尽力されてこられました。しかし、１期目ですので、前政権の継続事案、また交付税が年々減少するなど、厳しい財政状況の中で、恐らくご自身が描いてこられた案件の進捗、全てはできていないのではないかと考えます。

しかし、そんな中でも、実現に向けての進行中や現実に成果が見られている事案が当然あります。お答えはいただきたいと思います。

そこで、任期があと１年余りになりました。本格予算を組めるのは新年度、来年度が最後になるかとは思いますが、その予算編成に当たっての強いお気持ちを伺

いたいと思います。

それは、なぜお聞きしましたかといいますと、山梨県に市川三郷町という町がございます。１０月に初めて当選された町長らしいんですが、住民説明会を開かれまして、現状のままでは７年後には町の財政が破綻しますという報告を出しています。そこで、財政非常事態宣言というのを出したそうでございます。

この町は、２００５年には人口が１万７，９００人、２０２２年には１万４，８００人と減少をしています。税収も２００５年には１９億５，０００万円あったところが、２０２２年には１６億６，０００万円と苦しい状況が続いておるところでございます。

この町も４つの市町が合併したそうで、ほかの町では今日までにいわゆる公共施設の統廃合に取り組まれまして、３町合わせて４２５物件ありました公共施設を、５４件の統廃合を進めまして３７１件までにしたそうでございます。しかし、この三郷町では、４６件ありました公共物件が、減らしたのは１件のみだったということだそうです。

現町長、当然初当選で、まさかこんなことになるとは思っていなかったという発言もありましたが、５期務められた前町長は、何があったのか分かりませんが、その取組みをしてこなかったのが今のツケに回ったんではないかなということも皆さんから言われているそうでございますので、そういうことに越前町、なってはならないと私は思いますので、それらを含めた町長の新年度予算に対する取組みについてお尋ねをいたします。

○議長（佐々木一郎君）　町長。

○町長（青柳良彦君）　それでは、笠原議員のご質問にお答えをいたします。

まず、政策の実現に向け進めていることや成果について申し上げます。

私の掲げた政策につきましては、若い世代の町外流出が加速し、人口減少や少子高齢化が急激に進み、各分野に様々な影響を及ぼしていることから、ここで大きくかじを切らなければふるさと越前町が取り残されるという危機感を覚え、様々な悪影響を断ち切るためにも、定住促進策や少子高齢化対策、子育て支援策などを就任以来、一貫して全力で取り組んでまいりました。

政策の主な取組状況として、少子化、子育て支援策については、子どもの医療費助成の対象を令和３年１０月診療分より高校３年生相当まで拡大し、本年度からは、保険適用医療費の自己負担額を無償化いたしました。さらに、町内小・中学校の学校給食費無償化については、昨年度は３学期分を、本年度は２、３学期分を無償化し、令和６年度には完全無償化に向けて取り組んでいきます。

高齢者の生活支援策については、身体的に不安のある方を対象に、看護小規模多機能型居宅介護事業所を併設した越前町型サービス付高齢者向け住宅を令和６年春オープンを目指し、地域医療振興協会と連携して整備を進めています。さらに、高齢者の交通支援については、コミュニティ交通体系の見直しを行い、デマンドタクシー、チョイソコえちぜんを導入し、利用者の利便性の向上を図っています。

移住定住支援策については、奨学金返済の支援について、本年度に制度を創設し、令和６年度から実施していきます。また、持ち家住宅建設促進事業により若者が本町へ移住定住していただくために、新築住宅に係る助成制度の創設や、空き家・空き地情報バンクの創設などの支援を進めています。旧丹生合同庁舎跡地の利活用についても、定住促進の観点から、住宅用地の造成を含め有効活用を検討しています。

小・中学校の再編については、小学校は引き続き協議を重ねながら進めていきま

す。中学校につきましても、当初の基本方針案を前倒しして協議を進めています。
以上、進捗状況について主なものを述べさせていただきました。
次に、令和６年度当初予算編成に当たっての方針について申し上げます。
本町を取り巻く環境は依然として厳しく、課題が山積している中で、何が必要かを見極め、小さく賢く成長していくことが大切であると考えています。これまで私が提案したマニフェストに基づき事業を推し進めてきましたが、次年度は任期最後となりますので、検討しているものや実現できていないものについては、強い決意を持って事業に着手してまいります。また、マニフェスト以外にも、公共施設等総合管理計画に基づく施設の統廃合など、総合的に取り組んでまいります。
そのためにも、歳入においては、ふるさと納税のさらなる拡大を図るなど財源を確保し、歳出においては、事業の取捨選択と歳入に見合った行政運営を進めてまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。
○議長（佐々木一郎君）　笠原秀樹君。
○１２番（笠原秀樹君）　今、町長の答弁をお聞きしました。
厳しい行財政の中で、僕はすばらしい成果を収めながらもまた前進していると確信をしているところでございまして、高く評価をしたいと思いますし、これからもしっかりとしたかじ取りをお願いしたいと思うところでございます。
さっき質問の中でいたしました市川三郷町のようなことが、全国の市町でも起こらないとは限らないということを言われております。交付税の減額、これは急にじゃなしに、何年後にじわじわと効いてくると言われております。また、その説明会の中で住民の皆さんからは、また住みにくくなる、いわゆる夕張を思い出すという発言も出ておられたところでございまして、これからどうするかという、サービスの向上は、もちろんサービスがだんだんと低下していくんではないかと心配もありますし、そして今後、子どもにそのツケが回るようなことがあってはならないという声も出てきてもおりました。
町長は、今後ふるさと納税をさらに増額するように努めたいと、あるいは観光の超活性化を目指していくということを述べられておりましたけれども、そういうことには絶対になってほしくないという思いは私も強く持つところでございます。
今まで私も質問の中で、公共施設の統廃合を少しでも早く進めていただきたいという思いで質問をしたことがございます。私、１年生の議員のときに、鯖江市の、今は違いますが、牧野市長とお話をしたことがございました。そのときに市長は、もう公共施設の管理運営を行政がやったら、これはもう行政はたまったものじゃないと。とてももたないというお話をされていたのが、いまだに強く思い起こされるところでございます。
今、１１月の月例会の総務部の報告の中で、新年度予算に対する取り組み方、指針について報告がありました。公共施設等は中長期的にと、削減に向けてとありましたが、中長期じゃなしに、もう短中期にでも取り組んでいただきたいという強い思いでございます。国の助成、県の助成、これがある以上は、使われなくなっても何年かは手をつけられないとかという報告を聞いたことがございますが、これはもう町だけでなしに県も、僕は要らないものをいつまでも置いておくこと自体がおかしいんではないかなという思いでございますので。もちろん財政が破綻するということに関しては、これは公共施設等の改善、統廃合だけではないと私は思います。思いますが、どこかでやはりかじ取りが間違ったんだと私は思います。
それと、町長、来年度は、未来に輝く越前町のさらなる躍進に向けた予算という

ことを指針に述べておられます。やはり、本当に町民ニーズに対応した施策、越前町の公共施設等の統廃合管理も含めて、これはもう避けて通れない。私は思います。

子ども・子育て支援ですけれども、私も知っている人とお話しするときあるんですが、「笠原さん、うちの息子も３人とももう出て行ってまうんや」と、子育ての前の結婚する若い人がいなくなってしまうと。少なくなってしまうというのが今もうよく話に出てくることじゃないかなと思いますので、とにかく越前町に住みたい、ここで結婚して子どもを産んで、そして生涯住み続けたいと、そういうような越前町でなければならないと私は思います。

今、先ほど披露しました「翔んで埼玉～琵琶湖より愛をこめて～」のあの映画なんかも、埼玉県の一映画館では１日に２０回放映、そして滋賀県ではなんと２３回、もう「おしょりん」も、あれ僕も見に行ったときには６回ぐらいやっていましたが、各段に違いますので、その辺のところも含めて、さらに町長にはトップセールスとして越前町の発展のためにご尽力をいただければと思います。

今回限りということではなしに、次なる挑戦にもしていただくことを強く期待をいたしまして、質問を終わります。

○議長（佐々木一郎君）　これで笠原秀樹君の一般質問を終わります。

次に、１３番、木村　繁君。

１３番（木村　繁君）登壇

○１３番（木村　繁君）　佐々木議長におかれましては、６月に議長就任、９月に阪神タイガース、セ・リーグ優勝、そして最後に３８年ぶりの日本一、岡田監督言われるアレのアレのアレ、トリプルのおめでたとなりました。心よりお喜びを申し上げます。おめでとうございます。

しかしながら、来年のことを言うと鬼が笑うと言われますが、その鬼に笑っていただきましょう。我が読売ジャイアンツ、阿部新監督、敦賀気比出身の内海一軍ピッチングコーチ、もうこれだけでＡクラスは間違いありません。あとは、かつての王、長嶋のようにＯＮ砲ならぬ、令和の岡本選手、秋広選手、いわゆるＯＡ砲が６０本から７０本のアーチを架ければ、優勝に近づくと私は確信をしております。全国のトラキチの皆さん、くれぐれもご用心をください。

議長のお許しを得ましたので、通告書に基づき一般質問をいたします。

初めに、消防団の拡充・強化についてお伺いをします。

防災立国をどう構築するか、その１つの答えが、消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律第８条に明記されている地域防災力の中核として欠くことのできない代替性のない存在、すなわち消防団です。

しかしながら、本年８月発表の消防庁調査では、４月１日現在の団員数は約７６万人、これは過去最少人数で、退団者が５万７，０００人いる一方、入団者は３万６，０００人という危機的な状況にありますが、入団者自体は８年ぶりに増加したそうであります。

進む高齢化、少子化による団員数の減少に対して、昨年から２０代から３０代の入団者が増加した背景には、日常訓練や消火、災害援助など全ての活動に参加する基本団員とは別に、大規模災害時など特定分野の活動だけに従事する機能別団員、学生団員の活動を自治体が認証し、検証する制度の導入など、消防庁の努力があったとお聞きをしております。

今後はこのような消防団の新しい姿を広く伝えて、若い人の関心を高め、機能別団員、学生団員をさらに増加させる必要があると言われております。

１９５１年に消防団の設置が市町村に義務化をされ、翌１９５２年には約２００万人を擁した消防団は、主に土地勘のある地元の若い自営業者が日頃から訓練を重ね、火災はもちろん風水害が発生すると消火や避難誘導に駆けつけました。しかしながら、２０１０年以降はサラリーマン団員が７０％を超え、自営業に比べ制約も多いですが、それでも基本団員は職場の理解を得て工夫をしながら出動をしています。

一方の機能別団員は、専門を生かして広報活動や消防団員としての救命講習に従事するなど、平時から貢献をしています。さらに、消防団の分団を機能別分団とし、そこに交通網が遮断された震災時に情報収集するバイク隊、行方不明者を捜索するドローン隊を設置する例もあるそうであります。

私も宮崎地区の消防団員ＯＢで、過去には何回か現場を経験しました。町長も朝日地区団員ＯＢとして、消防団の重要性について広く深い見識をお持ちのことと存じます。消防団員には、住民や自主防災組織との連携の要となる防災リーダーの役割も期待をされています。

そこで、やる気のある若者の入団を促すに当たり、機能別団員、学生団員への見解について、そして、消防団への社会の理解をさらに広げるために必要な強化・拡充に対する行政としての方策及び方向性について、それぞれ町長のご所見をお伺いいたします。

次に、家族介護についてお伺いをします。

高齢化が進む我が国において、家族介護者は全国で約６５３万人、国民の約２０人に１人に上るそうであります。家族の介護を理由とする介護離職は年間１０万人前後で推移をしており、子どもの介護者、ヤングケアラーといった課題も顕在化しております。

主に家族が担ってきた介護を社会全体で負担する介護保険制度が２０００年から開始され、介護保険サービスの利用者数は、２０００年の１８４万人から２０２０年度には５７５万人へと３倍以上に増加をし、ショートステイ、短期入所、デイサービス、通所介護などの介護保険サービスを利用しながら家族介護する人も増えています。介護負担がある程度緩和されているとはいえ、主な介護の担い手になっているのは、今なお家族が多いのが現状であります。

国のほうで２０２２年に行った国民生活基盤調査によりますと、主な介護者の約半数は同居家族であり、具体的には配偶者が２２．９％、子が１６．２％、子の配偶者が５．４％と続くそうです。別居の家族も含めると、主な介護者の６割近くは家族であり、事業者は１５．７％です。さらに、同居する主な介護者の内訳を見ますと、女性が６８．９％、男性が３１．１％、年齢は６０歳以上が８割弱になります。介護する側と介護される側がともに６５歳以上という老々介護の割合は６５．５％で、２０２２年に初めて６割を超えました。そして、ともに７５歳以上の割合は３５．７％となり、３分の１以上を占めています。

また、家族介護者が肉体的、経済的、精神的に追い詰められ、社会的に孤立するケースもあり、そうした中で家族による高齢者虐待についての相談、通報件数は、２００６年の１万８，３９０件から２０２１年度には３万６，３７８件と倍増をしています。

そこで、本町における家族介護者の実態及び行政としての今後の方策、方向性について、民生理事の見解を伺います。

○議長（佐々木一郎君）　町長。

○町長（青柳良彦君）　それでは、木村議員のご質問にお答えいたします。

初めに、消防団の拡充・強化についてですが、本町では消防団を中心とした防災ネットワークが既に構築され、昨今の防災対策の基本である地域防災力の充実・強化が図られています。

しかしながら、議員のご指摘にもある全国的な消防団員の減少傾向は、人口当たり団員数が県内上位の越前消防団でも同様であり、過去１０年間では退団者２２２人に対し入団者１６５人となり、５７人が減少いたしました。

また、２０代の団員が今年度団員数３１０人中３３人と極端に少ないなど、高齢化の傾向も見られ、今後の人口及び自営業者の減少を見据え、入団者の確保に当たり、町としての対応の必要性を強く感じています。

ご質問１つ目の機能別団員、学生団員への見解ですが、越前消防団には機能別分団として災害支援班が設けられていますが、災害時における団員の補助役として主にＯＢ団員が入団していることから、若者の入団には結びついておりません。学生団員についても、国では学生消防団活動認証制度を創設して大学生などの入団を促進していますが、町内では学生が入団したケースはありません。各分団では、特に若者の入団を促すため、工夫を重ねながら加入促進活動を展開していますが、思うような結果を得られない状況となっており、町といたしましては、学生を含む若者が入団しやすい環境づくりに努める必要があると考えます。

次に、消防団の強化・拡充に対する町の方策、方向性についてですが、これまで行ってきた報酬額の引上げなどの待遇改善のほか、団員の加入促進において支障となっている形式重視の操法大会の見直しや、団員の皆様へのアンケート結果を踏まえたスキルアップのための訓練、研修の実施など、各種改善に取り組んでいます。

ほかにも、町内の消防団員を雇用する村田製作所宮崎工場をはじめ、１７の事業所を消防団協力事業所に認定し、消防団活動へのご理解とご協力をいただいております。

町といたしましては、消防署と協力し、防災訓練や町広報紙によりイメージアップに努めており、これまで以上に精いっぱい取り組んでまいりますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。

○議長（佐々木一郎君）　山口民生理事。

○民生理事（山口隆司君）　それでは、次に、本町の家族介護についてお答えをいたします。

本町の要介護認定者数は、２０００年の６４０人から２０２０年の１，０７９人と約１．７倍に増加しております。しかし、認定者数は２０１７年の１，１１８人をピークに減少傾向にあります。

また、在宅サービスの利用者も２０１４年の６２９人に対し、２０２２年は５６４人と減少しております。これは、本町の６５歳以上の高齢者人口が２０２０年の７，３０１人をピークに減少傾向となっていることも要因の一つであると思われます。

さて、本町における家族介護者の実態についてですが、昨年度、本町で実施した在宅介護実態調査では、主な介護者は子が５５．７％で最も多く、次に配偶者が２３．６％、子の配偶者が１７．１％となっております。主な介護者の性別は女性が６２．９％、男性が３６．４％となっております。主な介護者の年齢は６０代が３９．３％で最も多く、次いで５０代が２０．７％、７０代が２０％、８０歳以上が１２．９％となっており、６０歳以上の介護者は７２．２％となっております。なお、２０歳以下の介護者はおりませんでした。

また、本町の虐待相談、通報件数は、２０１２年は４件でしたが、２０２２年度は１２件と増加しております。虐待と判定した事例を見ますと、虐待の要因として、社会的交流が少ないことや、認知症や身体状況の悪化で介護負担が増えたこと、家族関係に変化があったこと、介護に対する知識不足などが影響していると考えられます。

介護者支援の方策としては、町では社会福祉協議会の協力の下、家族介護支援事業を実施しております。介護講座の実施や各種相談業務を実施することによって、介護者の負担軽減を図っております。

また、町では年２回、ケアマネージャーに対し、介護負担アセスメントシートを用いた介護負担調査を実施し、ケアマネージャーが担当している高齢者一人ひとりについて、介護者の状況や家庭環境、介護負担を確認しております。特に介護負担の重い家庭については、町とケアマネージャー、関係事業所が解決策を検討し、対応しております。

さらに来年度には、織田病院に隣接したサービス付高齢者向け住宅及び看護小規模多機能型居宅事業所が開設されます。この事業所は、医療依存度の高い人や退院直後で状態が不安定な人の療養を支える介護保険サービスで、主治医との連携の下、医療処置を含めた訪問看護、訪問介護、通い、泊まりのサービスを２４時間３６５日提供します。

このように、町としましては、地域の医療・介護関係者の協力を得て在宅医療、介護の提供体制整備を強化してまいります。また、地域での孤立を防ぐためにも、高齢者の見守り活動や支援を必要とする人を住民同士が支え合う地域共生社会を推進していくことも必要があると考えており、現在、地域包括支援センターと社会福祉協議会が協力して地域見守り体制の機能充実に取り組んでおります。

今後も高齢社会の進展により、ますます認知症高齢者や老々介護、在宅みとりなどが増え、介護者の負担は大きくなると予想されますので、町としましても介護者の状況をきめ細かに把握し、介護負担が大きい家庭には相談支援や介護の助言、家族関係調整、サービス利用の勧奨など、様々な支援を行ってまいります。さらに、団塊の世代が後期高齢者に到達するに当たっての介護予防対策等の強化にも努めていきたいと考えております。

以上です。

○議長（佐々木一郎君）　木村　繁君。

○１３番（木村　繁君）　ご答弁、誠にありがとうございました。

今の介護のことについてですけれども、今ほど理事のほうからお話がありました。先ほど町長からもお話がありましたが、織田病院に隣接する看護小規模多機能型居宅介護所、今思うと的を射た町長の目玉政策だったと思いますが、的を射た事業でないかなというふうに今現在は感じております。

最後の再質問になるかと思いますが、９月の決算認定委員会において、令和４年度の消防団の団員数は３２４人で減少傾向にあるとの答弁をいただきましたが、そのうち町の職員さんは何名おられるのか。また、日頃の業務等で忙しい中ではあると思いますが、積極的に消防団活動に参加する意識強化を図っていただきたいと思いますが、町長のご答弁をお願いいたします。

○議長（佐々木一郎君）　町長。

○町長（青柳良彦君）　お答えいたします。

現在、町職員のうち機能別団員３名を含む２１名が消防団に在籍しています。また、防災安全課長から町内在住の若手職員に対し入団勧奨を行っており、今後も

引き続き醸成に努めてまいります。
以上です。
○議長（佐々木一郎君）　木村　繁君。
○１３番（木村　繁君）　ありがとうございました。
消防団の強化、防災安全課長のご努力にご期待を申し上げまして、私の質問を終わらせていただきます。
○議長（佐々木一郎君）　これで木村　繁君の一般質問を終わります。
以上で、本日の日程は終了しました。
お諮りします。
本日の会議はこれで散会したいと思います。
これにご異議ありませんか。
（「異議なし」と呼ぶ者あり）
○議長（佐々木一郎君）　異議なしと認めます。
したがって、本日はこれで散会いたします。
なお、明日は午前１０時から全員協議会を開催しますので、定刻までにお集まりください。
ご苦労さまでした。

散会　　午前１０時４９分